

ずいぶん秋も深まってきました。

秋といえば皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。紅葉、お月見、おいしい食べ物、いろいろありますね。

一方で、COVID-19 に注意しながらの生活が続く中で、これから冬が近づいてくるとインフルエンザにも気を付けなければいけなくなるでしょう。

後期も始まり、対面授業もあれば、オンライン授業もあるかと思えます。

オンライン授業では、先生の顔は画面越しに見えるけれど、同じ授業を受けている学生同士はお互いに顔を合わせる機会のないままのこともあるかもしれません。

顔や姿が見えないような見知らないものを相手にするというのは不気味なものです。

同じ授業を受けているけれど、顔が見えず、どんな相手なのか、何を考えているのか、なんだかわからないことだらけの中で苦しい気持ちになる人もいるかもしれません。

今日はそんな気持ちを少し軽くできる昔話を紹介します。

～蟹問答～

昔々のある村に小さなお寺がありました。

そのお寺には、これまで何人ものお坊さんが迎えられましたが、その夜のうちに逃げ出す者もいれば、行方不明になる者もいて、いつの間にか化け物が住む寺と皆に恐れられて、誰も寄り付かなくなってしまいました。

そんなある夜、一人の旅人が村を訪れました。旅人はこの化け物の話を聞くと「私にお任せください」と言って、その寺に泊まることになりました。旅人が寺の本堂にどっかり座って夜が更けるのを待っていると、月の明かりに照らされて顔や手足に毛の生えた人間とは思えない化け物がやってきました。旅人が「お前は何者だ？」と聞くと、化け物が「横這い自在やいかに！」と問答を仕掛けてきます。旅人が「泡を吹いては子だくさん」と答えると、化け物は「両目天を指すはいかに！」と再び問いかけてきます。旅人は「湯につかれれば赤くなる」とさらに答えると、化け物は驚いて「両足八足大足二足これいかに！！」と問うのです。旅人は少し考えて「お前は蟹だな」と言うと、たちまち化け物は蟹の姿になって外に逃げていきました。

それからというもののその寺には化け物は出なくなったということです。

得体の知れないもの、見知らないものはとても不気味で、時には化け物のように怖い存在に思うこともあるかもしれません。

しかし、後々顔を合わせてみたり、時間をかけて相手のことを知っていくと、それほど恐れる必要のないものだったということが実際には多いのではないのでしょうか。

これからアンコウやフグも美味しい季節になります。見た目が奇抜な生き物を最初に食べようと思った人は勇気が必要だったのではないかと思います。あの美味しさをわかってしまえば、気にはならなくなります。・・・

皆さんの中で身近な不気味なものの中で不安や心配を持っている人がいましたら、総合相談室は一緒にその“しょうたい”を探していきたいと思っています。

専任カウンセラー 後藤龍太

